

大陸横断政策と3C政策、および3B政策

- 1) イギリスはエジプトを保護国化し (No.160)、ケープ植民地の支配を確立 (No.158) した。【1: 】 (エジプト) からアフリカ大陸を縦断してケープタウン (ケープ植民地) をつなぐ。これがイギリスの大陸縦断政策。さらにカルカッタ (現コルカタ、インド) と結びつける3C政策を推進した。イギリスはクウェートなども保護下に入れペルシア湾岸地域にも勢力圏を広げつつあった。
- 2) 第二帝政が終わり第三共和政期のフランスは、チュニジアを保護国化 (1881)、さらにサハラ砂漠をおさえ、最西端のセネガルからアフリカ大陸を横断してアデン湾に面した【2: 】、さらにはマダガスカル島へとつないでいこうという大陸横断政策を推進した。
- 3) ドイツはベルリンとイスタンブール (古名はビザンチウム) を結び、小アジアのコンヤを経てバグダードに至る3B政策を企画し、1889年には【3: 】の敷設権を得ていた。ペルシア湾にまで達したいと考えていた。
- 4) 前掲1)と2)の政策が物理的にも衝突したものが【4: 】である。



- ①フランスが送ったマルシャン大尉率いる200名の武装探検隊は1898年7月10日、ナイル河畔のファシヨダ村に到着した。一方イギリスは、1882年にエジプトを事実上の保護国化した後、ナイル川に沿って南下し始めたがマフディーの反乱 (1881～98) の鎮圧に手間取った。しかしその後、イギリスは2万5千の大軍を動員し、鉄道を敷きながら南下しスーダンを支配下に置いた。このとき、イギリス軍の先遣隊が、さらに南のファシヨダ村にフランス国旗が掲げられていることを発見し、急遽、軍を派遣した。司令官はキッチナーである。ファシヨダ村は現南スーダン上ナイル州にある。青ナイル・白ナイルの合流点の【5: 】よりさらに上流である。
- ②ファシヨダで両軍は一触即発となり、この時期の大国同士の紛争としては珍しく武力衝突が起きるかと思われた。しかし、キッチナー (英)・マルシャン (仏) 両司令官は会見し、事態の処理を本国にゆだねることにした。フランスは、当時急速に勢力を拡大していた【6: 】との衝突に備えてイギリスとの関係を悪化させることは避けるべきと考えた。また、ドレフュス事件をはじめとする不祥事で当時のフランスの軍部は国民の信頼を失っており、遠くスーダンで戦争を遂行することは世論の賛同を得られないと思われた。このような事情で、結局フランス軍が譲歩し、翌1899年ファシヨダから撤退した。これでフランスの横断政策は成りななかったが、フランスはアフリカ大陸の西半分の広大な地域とマダガスカルを領有し、事実上アフリカ大陸をイギリスと2分割したも同然であった。
- ③この時英仏の関係は非常に緊張したが、本事件以後、英仏関係は融和に向かった。ドイツ帝国の勢力拡大に直面した両国は、1904年、【7: 】を結んだ。その協商で、フランスはエジプト・スーダンでのイギリスの優越権を、イギリスはモロッコにおけるフランスの優越権をそれぞれ認め決着をみた。そして、当然英仏はドイツには結束して対抗し何も与えない。
- ④第一次世界大戦でイギリスが、敗北したドイツからドイツ領東アフリカ (タンガニーカ) を獲得したため、イギリスの大陸縦断政策は完遂された。
- 5) ドイツは1880年代半ば、既にカメルーン (1884-85)、南西アフリカ (1884着手)、独領東アフリカ (1885領有) を得ていたが、いずれも経済的価値は満足できるものではなく、20世紀に入るとさらに植民地獲得をめざして行動した。
 - ①第一次モロッコ事件 英仏協商に対抗してヴィルヘルム2世は1905年3月31日に突然モロッコの【8: 】を訪問し、フランスに反感を持つスルタンにモロッコ独立を支援することを約束した。
 - ②アルヘシラス会議 ドイツの要求で1906年1月から4月にかけて開催された。期待に反してアメリカもイタリアも英仏を支持し、同盟国オーストリアさえも消極的支持で、ドイツはほぼ何も得られず、孤立が深まっただけだった。
 - ③第二次モロッコ事件 モロッコで起こった反フランス暴動を鎮圧すべく出動したフランス軍に対抗して、ドイツ政府は1911年7月1日に【9: 】に艦隊を派遣し、モロッコの領土保全と門戸開放を訴え、フランス領コンゴの譲渡を要求したが、イギリスがフランス断固支持を表明したため、結局ドイツが新たに獲得した植民地はたいして価値のないドイツ領カメルーンの領土拡大だけだった。1912年モロッコはフランスの保護国になった。
- 6) イタリアも1880年代以降アフリカ分割に加わった。①エリトリア (1885)、②エチオピア (1896)、③ソマリランド (1908)、④トリポリ・キレナイカ (1912、現リビア) を手に入れた (但し②は失敗)。詳しくはNo.134を参照せよ。



アフリカの文化と社会は大きく傷ついた

- 1) ヨーロッパ諸国は、アフリカ内部での対立を巧みに利用し、抵抗は軍事力で粉砕していった。アフリカでは、エチオピア帝国とリベリア共和国を除き、19世紀末にはほとんどの部分が植民地にされてしまった。植民地化された地域では、一般

に、土地は多くの場合ヨーロッパ人に占有され、アフリカの人々には貨幣による人頭税や小屋税（世帯単位の税）が課された。また、特定の商品作物の栽培を強制されたり（モノカルチャー）、プランテーションや鉱山で過酷な労働を余儀なくされ、働き手を黒人奴隷として海外に奪い去られたことに加えての植民地化は、アフリカの社会と文化に、大きな打撃を与えた。

- 2) アフリカ分割にあたって、列強は人為的に境界線を定めたので、そこで暮らす人々のつながりや交易網を破壊した。独立後に至るまで、そこに住む人々の自立や独立に大きな障害を残した。
長い内戦の末、2011年にスーダン共和国の南部10州が南スーダンとして（アフリカ大陸54番目の国家）分離・独立した。スーダンとの国境線は、アフリカ人が初めて自ら設定した国境線である。

列強は太平洋上の大小の島々まで競って占有した

太平洋にやってきたヨーロッパ諸国は、最初はポルトガル・スペイン・オランダ、次いで18世紀にイギリス、19世紀にはフランス・ドイツ・アメリカ合衆国である。地域ごとにまとめよう。

オーストラリア

- 1) 先住民は【10: 】。数万年前の最終氷期、大陸とほぼ地続きだったころ移住した人々の子孫である。
1770年、イギリスの探検家【11: 】が「発見」し、今日のニューサウスウェールズに上陸、イギリスの領有を宣言。
1788年、最初の植民団が到着、独立したアメリカに替わる**流刑植民地**が創設された。
19世紀初め、スペイン産の羊を改良し、以後、羊毛産業が発展する。
1828年、全土がイギリスの植民地となり、開拓が進む。
- 2) 1851年にビクトリア州（オーストラリア南東部）で大きな金鉱脈が発見され、大々的なゴールド・ラッシュに突入、1860年代には、世界の金の3分の1を産出するほどに！中国人をはじめとするアジア系外国人労働者の増大は白人住民の不安を高め、白豪主義と呼ばれる政策が行われた。
アメリカ合衆国カリフォルニアのゴールドラッシュは1849年（発見は1848年）、南アフリカのトランスヴァール共和国で大きな金鉱脈が発見されたのは1880年代半ばである。
- 3) 農牧地を開拓するために先住民のアボリジニーから土地を取り上げて追放し、反抗者は（時には反抗しない者も）殺害した。東南部の南の海上に位置するタスマニア島もオーストラリアの一部であるが、先住民である純血のタスマニア・アボリジニーは、ハンティングの獲物（人間が）にするとという酷い虐待等の結果1876年に絶滅した。
1880年代から有色人種の移民を制限する白豪主義をとった。例えば語学試験などでアジア人移民の入国を防ぎ、国内では露骨な差別政策を実施してきた。1973年に政策転換した。
- 4) イギリスはニュージーランド（後掲）・カリマンタン島（ボルネオ島）北部・ニューギニアの一部も領有した。

2011慶応義塾 大問3

……1848年にカリフォルニアで金鉱が発見されると世界中から移民が殺到し、人口が激増した。このため1850年にカリフォルニアはアメリカ合衆国31番目の州になった。1850年代にはイギリス植民地の(81) (82)でもゴールドラッシュが起こり、カリフォルニア同様に人口が急激に増加した。このためもあり、(81) (82)は1901年に(83)自治領となった。また(84)南アフリカでは19世紀中頃にブル人が建設した(83) (84)やオレンジ自由国で金や(85) (86)が発見された。このため両国は(87)19世紀末にイギリスによる侵略を受け、最終的にはイギリス領となった。……

(81) (82) オーストラリア、(83) (84) トランスヴァール共和国、(85) (86) ダイヤモンド 実問は記号式

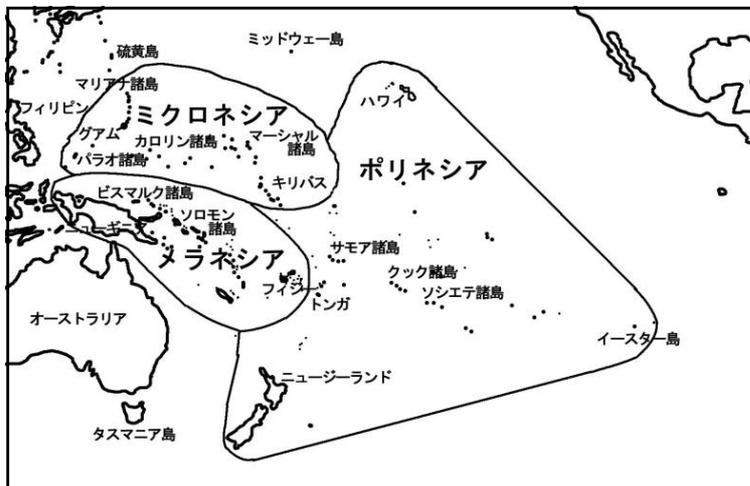
ニュージーランド

先住民は【12: 】。1642年にオランダの探検家【13: 】が到達。1840年にイギリス植民地となる。マオリ人は激しい武装闘争で抵抗したが鎮圧された。現在のニュージーランド国民は先住民の文化に敬意を払うよう教育され、ラグビーニュージーランド代表チームのオールブラックスは国際試合の前にマオリの出陣の踊り、「ハカ」を行うことで知られている。

オセアニア

広義ではオーストラリアもオセアニアである。ミクロネシア・メラネシア・ポリネシアの地図上の位置を覚えよう。

- 1) ニューギニアはオランダ、ドイツ、イギリスの3国に分割された。
- 2) 【14: 】はドイツ、メラネシアとポリネシアはイギリス・フランス・アメリカに分割された。
- 3) フロンティア消滅で政策転換をとげたアメリカは1898年、アメリカ=スペイン戦争の結果、スペインからフィリピン・【15: 】を獲得、同年【16: 】も併合した。



《No.161の蛇足》ベルギーの植民地だった現コンゴ民主共和国の首都は植民地時代と同じくキンシャサ。1974年、劣勢と伝えられていたモハメド=アリがジョージ=フォアマンに8ラウンドKO勝ちした「キンシャサの奇跡」は有名。ボクシングファンでない人まで知っている国際的常識。モハメド=アリはベトナム戦争への徴兵を拒否したことや人種差別と闘ったことでも知られる。